

2011年度 学生プロジェクト年間活動報告書【3月号】



プロジェクト名称 【参加人数: 20名】

旧山古志村復興支援活動団体

活動概要・目的 【活動期間: 2011年6月1日～2012年3月31日】

本プロジェクトは、昨年度に引き続き千年の伝統を持つ新潟県長岡市旧山古志村における震災復興支援活動である。本計画地の新潟県長岡市旧山古志村は、山間に広がる棚田、錦鯉の養殖池のつくりだす光景など、日本の代表風景を有している。この風光明媚な土地は、2004年10月23日新潟県中越地方を襲った中越大震災が発生した地域である。現況では、住民の生活に関わる復旧工事はほぼ完成したといえる。しかし、住宅の復興が完成しただけでは本当の意味での復興の完成とはいえない。昨年の活動を通して、千年の伝統を持つ村を新たに育てていこうとする住民の方々の気持ちを強く感じ、そのような旧山古志村の復興支援において、ものづくりを学ぶ学生として力になりたいと考える。

年間活動実績

| 日程 | 活動概要 | 活動場所 | 活動内容 |
|------|--------------------|------------------|---|
| 7/5 | 山古志村現状視察 | 山古志支援センター | 新牧場の活動 ワークショップの検討 |
| 7/6 | ミーティング | 大学 学内 | <ul style="list-style-type: none"> 週末の山古志視察の報告 東北大震災の被災者を対象とした「山古志アルパカツアーworkshop」の企画会議 新牧場の看板制作の提案 今後の日程に関して |
| 7/13 | ぬいぐるみ試作 | 大学 学内 | ワークショップの企画の一つであるぬいぐるみづくりの試作、検討 |
| 7/16 | 食事会 | Creative Hub 131 | 「やまの野菜」直売会及びやまの野菜をつかったオープンキッチン方式※での食事会。 ※1人500円で5品の野菜を自由に調理できる新たなメニュー開発など多くの発見があった |
| 7/28 | 看板デザイン案出し | 大学 学内 | 新しい看板のデザイン、方向性の話し合い |
| 7/29 | ミーティング | 大学 学内 | 支所の方に提案する看板デザインの最終決定 ワークショップ企画内容詳細の話し合い |
| 8/5 | 看板案、設置場所検討 現地視察 | 山古志支援センター | 支所の方とのデザイン会議、看板設置場所の提案・検討、実際に場所を見に行く |

2011年度 学生プロジェクト年間活動報告書【3月号】



年間活動実績

| 日程 | 活動概要 | 活動場所 | 活動内容 |
|------|------------|-----------|---|
| | | | 夜は宿で看板の色や大きさなどの最終決定 |
| 8/6 | 看板制作 1日目 | 山古志支援センター | <ul style="list-style-type: none"> •材料の買い出し •看板制作を本格的に開始 •夜は村の方たちと食事をし親睦を深める |
| 8/6 | 看板制作 2日目 | 山古志支援センター | <ul style="list-style-type: none"> •看板制作、余った材料でベンチの制作 •成果物を支所の方に引き渡し、設置を行う |
| 8/23 | ぬいぐるみ試作会 1 | 大学 学内 | ワークショップに向けての試作、検討 |
| 8/25 | ぬいぐるみ試作会 2 | 大学 学内 | ワークショップに向けての試作、検討 |
| 8/27 | ワークショップ準備 | 山古志支援センター | |
| 8/28 | ワークショップ | 山古志支援センター | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

2011年度 学生プロジェクト年間活動報告書【3月号】



プロジェクトの成果・結果・達成度・関係者からの評価

今年度の活動では、昨年度よりミーティングに多くの時間をかけることで地域の方の依頼から求められている以上のことをくみ取ることができ、密度の濃い復興活動ができた。

[牧場に置く椅子作り、看板設置]

以前作成し、設置できていなかった分の看板を設置。また、アルパカ牧場の休憩スペースに椅子が欲しいということでオリジナルの椅子を制作した。ワークショップの際にはこの椅子を楽しそうに利用しているお客さん姿を見ることが出来た。

[新しいアルパカ牧場に関するワークショップ]

当初、整備してきたアルパカ牧場を利用して貰うことを目的としたワークショップ計画だったが、東日本大震災の被災者を招待することで、中越地震から復興してきた山古志の姿を知って頂くこと、勇気を与えることが出来た。また、他の参加者からも「またやって欲しい」との言葉を頂けた。

[10.23 7周年追悼式 ボランティアスタッフ]

毎年10月23日に行われる追悼式のボランティアスタッフを行った。あいにくの雨天で中止になる動きも出たが、全員が手を止めず作業を行った結果実施することができた。

[来年度活動に向けた調査]

地図作成などの依頼に応えるため、敷地調査や市役所の方との話し合いを行った。新たに出てきた課題にもより良い形で応えるべく、今後話し合いを重ねていく予定。

受賞・メディア取材(新聞、広報誌、TV等)

- ・山古志全集落が集まる 10.23追憶式イベントに参加、活動紹介
- ・財団法人学生サポートセンター平成23年度「学生ボランティア団体」助成に「採択」される

プロジェクト活動を振り返って(チームとして成長したこと、感動や印象に残っていること、反省、今後の展望について)

- ・話し合いの時間を多く設けることで、昨年度よりも活動内容の密度が濃いものとなってきた。当初、アルパカ牧場の利用促進のため計画していたワークショップは、お客様から集落の方まで参加し、結果として東日本大震災の被災者に傷を癒して貰う場の提供にも繋がった。
- ・雨天での追悼式では、誰もがその手を止めず式を成功させたいという姿から自然災害について、命の大切さについて再度考えさせられる機会となった。そして自分たちの活動の意義について振り返ることが出来た。
- ・学生側からの提案が少しずつだが出来てきた中、制作したロゴマークのデザインの著作権の問題などが出来た。これらの管理を徹底することでブランド化していき地域貢献に役立てていきたい。また、今回の追悼式でも東洋大学との合同作業になったため、事前に交流の場を設けるなどして今後の活動内容の充実化を目指す。

プロジェクト活動写真

アルパカ牧場の看板位置確認、デザイン、製作作業・設置作業





プロジェクト活動写真

やまの野菜を使った東京での食事会



旧山古志村について学ぶ、フィールドワーク



プロジェクト活動写真

10.23 やまこしありがとう祭り

